新・座談会シリーズⅧ
開学30周年を迎えて◎大学院を語る3
現代社会研究科

4つの専門分野で多角的視点から実践的な教育研究を行う。

現代社会研究科は1999年（平成11年）、本学3つ目の研究科として開設しました。当初は修士課程のみで、2002年に博士前期課程となり、同時に後期課程も設置しました。単一専攻の中に4つのコースを擁し、既存の学問分野の枠にとらわれず、多角的な視点から実践的な教育研究を行っています。現在、院生22人（前期課程13人、後期課程9人）と研究生2人が在籍。社会人や外国人、他大学からの入学者も多くいます。発足からの8年間で前期課程141人、後期課程満期退学20人、そして課程博士1人を送り出しました。

現代社会研究科長
谷沢 明教授

専門：地域文化論、民俗学
1975年　法政大学大学院工学研究科修士課程修了
1989年　文部省大学共同利用機関放送教育開発センター助教授
1995年　愛知淑徳大学現代社会学部教授
2000年　博士（工学）学位取得（法政大学）
著　書　『瀬戸内の町並み―港町形成の研究』（未来社）ほか

間口が広く、垣根は低い特色ある4つのコース

谷沢研究科長　現代社会研究科の教育目標は、現代の地域社会や国際社会が直面する問題を広い視野で研究できる人、メディアの分野で創造的な仕事ができる人、新たな都市環境を創造する人材の育成です。現代社会の課題に理論的、実践的に対処できる研究者、また高度な専門知識と技能を持つ職業人の養成を目指していますが、生涯学習社会に向けて、より深い教養を身に付けたい人も歓迎しています。

地域社会、国際社会、メディアプロデュース、都市環境デザインの4つのコースは、それぞれの専門分野の教育研究を深めながら、相互に連携協力して、既存の学問分野の枠にとらわれず、教育研究を行っています。それが本研究科の特色です。

学生はいずれかのコースに所属して専門教育を受けながら、ほかのコースの授業に参加することもできます。他分野の知識を得て、広い視野と多角的な視点から研究を進めることができます。

西尾教授　私の研究生で、博士後期課程を満期退学した社会人学生がいます。彼女は、前期は地域社会コースで老人医療問題に取り組んで修士号を取りましたが、後期では台湾での福祉、特に老人福祉を研究したいと国際社会コースに移ってきました。問題意識の変化に伴って前・後期でコースを変えたわけですが、普通の大学では大変難しいと思います。

本研究科の間口は非常に広く、4つの大きな柱、コースを移動することで、いろいろな研究ができるというメリットがあります。いろいろな先生がいるため、それが可能になっています。

谷沢研究科長　さまざまな実務に携わっていた教員を始め、理系文系含めて幅広い分野の人材が一研究科に集まっているのも大きな特色です。その長所を最大限に生かし、学生はさまざまな先生の指導を、低い垣根のもと受けることができるのです。

他大学や海外からも

谷沢研究科長　学生の特徴としては、本学卒業生はもとより、他大学

左より、 都市環境デザインコース　前期課程1年　原田康平さん
メディアプロデュースコース　後期課程2年　原田穂高さん
国際社会コース　後期課程3年　アディカリ・ビマルさん
地域社会コース　前期課程1年　林健太さん

西尾林太郎教授

専門：政治学、日本政治外交史
1981年　早稲田大学大学院政治学研究科博士課程満期退学
1991年　北陸大学教養部（翌年、法学部）助教授
1996年　愛知淑徳大学現代社会学部教授
2007年　博士（政治学）学位取得（早稲田大学）
著　書　『大正デモクラシーの時代と貴族院』（成文堂）ほか

現代社会研究科現代社会専攻

地域社会コース

地域社会は今、少子高齢化、情報化、国際化、地域経済の停滞など、急激な変化の過程にあります。その変化に対応して持続可能な地域社会を形成するため、新たな地域システムを構築し、それに寄与できる人材の育成を目指しています。

国際社会コース

グローバル化、複雑化しつつある現代の国際社会の諸問題を多角的に解析し、日本とアジア諸国との関係等について考察し、研究を進めていく人材を育成します。

メディアプロデュースコース

メディアについて、理論と実習を組み合わせて総合的に探求します。メディアの社会的、文化的なあり方を多角的、実証的に追求し、高度な専門知識を持つ人材を養成していきます。

都市環境デザインコース

都市と建築について、計画、設計、建設、維持、保全など、理論と応用の修得を行うと共に、研究成果を実際的な提案に結びつけられる高度な専門知識を持つ人材の育成を目指します。

の卒業生、社会人、海外からと、多様な学歴、職歴を持った人が入ってきます。現代社会研究科が本学で初めて夜にも授業を行う昼夜開講制を実施しましたが、始めた頃は4分の1くらいが社会人でした。現在は割合が減っていますが。

西尾教授　国際社会コースでは留学生が多いですね。本学の他の研究科に比べて一番多く、特に中国、韓国、台湾などアジア圏からの留学生が目立ちます。また、他大学から現代社会研究科へという学生が多いのも特徴です。

谷沢研究科長　林さんは日本福祉大学からですが、数年前に日本福祉大から地域社会コースに入った学生がいました。修了後はここで学んだ地域づくりを実践に移して、郷里に戻って議員をされているんですよ。

前期課程修了で1級建築士の受験資格を取得

谷沢研究科長　皆さんが本学を選んだのは。

林さん　自分がテーマとしている「色覚」を、従来からある医学や福祉的な視点ではなく、社会科学的な視点から研究したいと思っていました。大学院を探している時に愛知淑徳の石田好江先生を知りました。先生は労働やジェンダー問題にも取り組まれているので、色覚を雇用や差別構造など、広い視野から研究できるのではと思い、地域社会コースを希望しました。実際に入って指導していただき、先生から多くの知識を吸収し、視野が広がったと実感しています。

ビマルさん　日本はアジアの中で一番発展しているので、日本で勉強したいと思っていました。ホームページを見て、海外で長く学ばれた清水洋先生のもとで勉強したいと、国際社会コースに入りました。国内外の有名な大学を出られた先生が多くいるのは、とても魅力的です。

西尾教授　ビマルさんのように、ご自分の母国と日本との関係という視点で物事を捉えようとする留学生が国際社会コースには多いですね。

ビマルさん　日本を含む国際社会のさまざまな地域と諸問題を比較研究できるのがいいと思います。

原田（穂）さん　私は以前から「新しいもの」への好奇心、興味が強く、大学もその基準で選びました。大学院を探す時も同じで、メディアプロデュースというのは見たことがなかったのと、広告に関する研究をしたいと思っていたので、ちょうどいいと思って選びました。

前期の時にはほかのコースの講義を取り、いろいろな先生から話を聞いて、さまざまな視点から見ることの大切さを学びました。

原田（康）さん　学部生の頃にポルトガルで行われた建築トリエンナーレに出品するプロジェクトに、他大学の学生と一緒に参加したことが、院を志望するきっかけでした。そこには、いろんな考え方を持つ人がたくさんいて、とてもよい刺激を受けました。その後、他大学の教授や院生と接していくうちに、自分も大学院へ進もうと思い、他大学と関係を保ちながら自分の大学で学ぶことができる都市環境デザインコースを選びました。

谷沢研究科長　都市環境デザインコースに2年間在籍して必要な科目を修めると、1級建築士の受験資格を得られます。大学で必要なコースを修了したあと、2年間の実務経験が必要ですが、前期課程を修了することにより、受験資格を取得できます。

原田（康）さん　大学院で勉強することで実務経験に代えられるわけですから、僕にとってはとても魅力がありました。

地域社会コース　前期課程1年

林 健太さん

日本福祉大学経済学部経済学科卒業。
●研究テーマ「色覚異常者に対する制限の歴史的な背景―政治と科学がもたらす弊害」。色覚異常者に対する制限の歴史的な背景を調査し、障がい者雇用の戦後の変化、遺伝的な障がいと差別との関連性を考察し、国の体質や差別というものがどういう構造で作られていくかを明らかにしたいと思います。指導教員は石田好江教授。

国際社会コース　後期課程3年

アディカリ・ビマルさん

ネパールのトゥリーブバン大学で数学と経済の学位取得後、中学校で数学講師として3年間勤める。来日して本研究科へ。
●研究テーマ「ネパールの経済発展における日本の役割」。せっかく日本に留学したので、日本とネパールの経済関係について研究したいと思いました。指導教員は清水洋教授。

谷沢明研究科長　　西尾林太郎教授

ひたむきに物事と向き合っていく輝きを持ってほしい。――谷沢研究科長
コミュニケーション能力を磨き、人脈を大事にしてもらいたい。――西尾教授

5つの科目群による前期課程のカリキュラム

谷沢研究科長　現代社会研究科のカリキュラムについて、特徴を紹介したいと思います。

前期課程ではカリキュラムを共通科目、専門科目、プロジェクト科目、特別研究科目及び関連科目の5つの科目群に分けて教育を進めています。

共通科目は多様な学歴、職歴を持った学生の教育研究を円滑に導くための科目で、基礎となる研究技法を開設しています。

専門科目は各コースの問題領域別の講義科目で、それぞれの領域の概観、研究史、そして現代的な課題を教示し、問題発見の手がかりを与えます。

プロジェクト科目は各コースの最前線における研究テーマを設定し、教員と学生が共同して研究に取り組みます。それにより教育と研究を結び付け、学生の現実的な課題への対応能力を養成します。

関連科目は、現地調査のフィールドワークを中心とする海外実地研修、ほかに最前線で活躍する専門家や実務家から講演と討論、現地見学、ワークショップなどの体験学習も取り入れた主題講義の2つからなっています。

海外実地研修はアジア諸国を対象に2年に一度、現地の大学や公的機関、団体、企業を訪問します。そして、現地の先生方や学生、実務者と情報交換、意見交換を行います。これにより各国社会の現状や問題を具体的にとらえ、理解を深めています。さらに学生が異文化体験、交流経験を行うことで、実践的にさまざまな力が培われます。

特別研究Mは修士論文の指導です。メディアプロデュース、都市環境デザインコースでは修士設計、修士制作に代えることができます。これに向けて研究テーマを設定し、教員が研究の個別指導を行います。

また後期課程では、前期課程で修得した現代社会におけるさまざまな問題に関する学識と研究能力を基礎とし、それぞれの専門分野の教育研究に重点を置いた研究指導を行います。

充実した施設と設備で研究に打ち込める

谷沢研究科長　現代社会研究科へ入学して、どんなことがよかったと思いますか。

林さん　ディスカッション主体の講義が多く、自分たちが取り組んでいるテーマを紹介して意見を言い合ったりと、互いに刺激し合えます。院生研究室が地域社会と国際社会のコースが一緒なので、留学生の方と話せるのもユニークな点ですね。

パソコンや図書などの設備も整っており、忙しくて図書集めに時間が取れない時は、司書の方がすぐ調べてくれて助かっています。

ビマルさん　図書館の人は親切ですね。ほかの図書館からの取り寄せもすぐしてくれます。それと、日本やアジアの国々の留学生とも交流できて、いろんなことを教えてもらえます。先生にはレポートを細かく丁寧に見てもらえるので、いい論文が書けそうです。

西尾教授　論文は日本語か英語の

新・座談会シリーズⅧ
開学30周年を迎えて◎大学院を語る3

現代社会研究科

都市環境デザインコース　前期課程1年

原田康平さん

愛知淑徳大学現代社会学部現代社会学科都市環境デザインコース卒業。
●研究テーマ「建築空間とサインシステム・グラフィックデザインの関係」。近年、建築物のサインシステムを、設計段階からアートディレクターが参加し、建築家と共にサインなどのグラフィックを計画しています。このように、建築とグラフィックを別物ではなく一つのものとして捉えることで、新しい関係が生まれるのではと考えています。指導教員は日色真帆教授。

メディアプロデュースコース　後期課程2年

原田穂高さん

愛知みずほ大学人間環境学部卒業。心理学や環境学などの視点から住環境を勉強した。
●研究テーマ「バイラルマーケティング（インターネット広告の一種で、主に動画配信を中心とした口コミによる広告手法）の活用」。前期課程の時、ヨーロッパで流行していた「バイラル」に注目。インターネット広告について論文を書きたいと思っていたので、テーマとすることにしました。指導教員は五島幸一教授。

どちらかで書きます。中国の学生さんで、どうして中国語ではいけないのか、という人がいました（笑）。

原田（穂）さん　メディアプロデュースコースの院生は、ソシオメディアセンターとデジタル編集室がフリーで使えます。映像を編集したりするほか、疑問に思ったことはスタッフがすぐに答えてくれて、心強いですね。

原田（康）さん　都市環境デザインコースは学部の時と同じく、8号棟の5階で作業することが多いですね。最新のMacが何十台も並んだCAD室でパソコン作業をしたり、建築関係の雑誌や書籍など資料が充実した図書スペースで図面を引いたりしています。他大学と比べて、すごく施設が充実しているのを実感しています。

多岐にわたる修了後の進路

谷沢研究科長　修了生の進路は多岐にわたっています。公務員として社会に貢献している人、一般企業に入った人などさまざまです。職を持ちながら学んでいた社会人は、研究科で専門知識を得た上で、その職業を続けていくケースが多いですね。皆さん、修了後の予定は。

ビマルさん　私はネパールに帰り、大学で教えたいと思います。NGOに入ってもいいかなと思っています。

西尾教授　博士後期に在籍している留学生は、博士号を取って、祖国の大学教員あるいは上級公務員になりたいという人がほとんどですね。

林さん　僕は公務員か一般企業を考えています。企業でもJAのような地域に根ざした企業に勤めたいですね。

原田（穂）さん　大学で研究者か講師をしたいのですが、最近はそういうポストが減って難しい状況です。そのため、それらを目指しつつ、研究しているインターネット広告やインターネット動画配信などのサービスを行う会社を起業し、会社のノウハウを研究にフィードバックするということをしたいですね。研究者と企業という2つを平行して行い、それを研究につなげられたらと思っています。

原田（康）さん　僕は設計事務所かデザイン事務所に就職して、何年か経験を積んだあとに独立できたらと思います。

西尾教授　そのためにも一級建築士は是非とも取らないといけませんね。

原田（康）さん　取りたいですね。資格を持っていないと仕事になりませんから。

いい出会いは一生の財産 人脈を大切にしてほしい

谷沢研究科長　現代社会研究科が求める学生像として、ひたむきに物事と向き合っていく輝き、そういうものを持ってほしいと思います。

　私は民俗学者の宮本常一先生に教えを受けましたが、宮本先生は自分の師である渋沢敬三から、「本当の学問を育てていくには、本当の資料になりうるものの調査、発掘をすることが大切であり、またそういう作業をいとわない人々を育てることである」「理論を振り回すことが学問ではない」と教えられたそうです。これからさまざまなことを学び取ろうとしている学生に対して、私も師匠から聞いた言葉を繰り返して伝えたいですね。

西尾教授　いい出会いというのは一生の財産になります。林さんやビマルさんは、この先生のもとで勉強したいと、この研究科を選ばれたそうですが、そういう学生が来ると嬉しいし、教師冥利に尽きます。一人前にして送り出したいと思うものです。そうでなくても、さまざまな出会いを大切にして、コミュニケーション能力を磨き、ここで培った人脈を大事にしてもらいたいと思います。

原田（穂）さん　私は前期と後期では担当の教授が違うのですが、経歴や個性の異なるいろいろな先生と接して、自分を指導してほしいと思う教授を見つけました。

谷沢研究科長　本研究科は学びたいという意欲のある学生は喜んで受け入れるよう、来る者拒まず、といった姿勢です。そして細やかな指導体制を整えていくことは、私どもがいつも気にかけていることです。多様な分野の方々との幅広い交流の中で、充実した学生生活を送ってほしいと思います。